

<調査の概要>

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査実施日 令和5年4月18日(火)

3. 調査の対象 小学6年生：国語・算数・質問紙

中学3年生：国語・数学・英語・質問紙



令和5年度全国学力・学習状況調査の問題・正答例・解説資料・質問紙調査は、こちらからご覧いただけます。

<調査結果の概要>

・教科に係る結果では、小中学校とも、いずれの教科においても全国と比べて低い状況が続いていますが、小学校では国語の平均正答率の対全国比が上昇するなど、改善傾向が見られます。

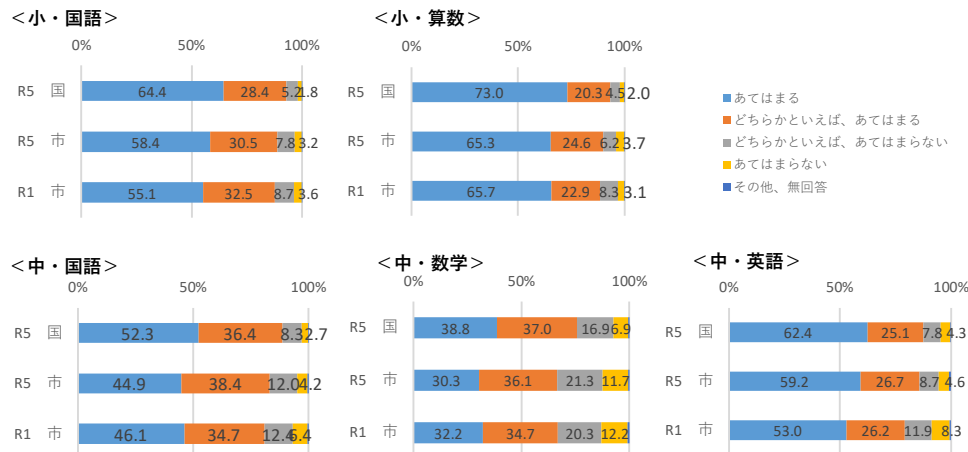
・平均正答率40%以下の児童生徒の割合は、小学校の国語・算数、中学校国語で低くなってきており、基礎的・基本的な学力の定着が図られていることが見取れます。

・児童生徒の質問紙調査では、各教科の学習について有用性を感じている児童生徒は、令和元年度調査に比べて増加していますが、全国に比べて低いことが見取れます。各教科をはじめ、キャリア教育、総合的な学習の時間等での「探究的な学び」を通じて、「活用する力」の育成が必要であると考えられます。

・教育委員会としては、児童生徒が学力を着実に身につけることのできる授業を全ての教室で実現できるよう、引き続き取組みを強化していきます。また、児童生徒の生活習慣・学習習慣にも依然として大きな課題があることから、学校が家庭・地域とより一層連携した教育活動が進められるよう支援していきます。

<質問紙調査(抜粋)>

「〇〇の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」



「国語/算数/数学/英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、小学校の国語や中学校の英語では、学習の有用性を感じている生徒が、令和元年度よりも改善していますが、いずれの教科も全国より低い状況です。

学習の有用性を感じることが、学習への意欲・主体性を高めることや、夢を実現させるために学習することへの動機づけにもつながります。授業や家庭での学びが、日常生活や社会とつながっているということ、子どもたちが実感することが大切です。

<教科の平均正答率> (令和2年度は実施せず)

小学校	令和元年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比
国語	53	63.8	0.83	55	64.7	0.85	56	65.6	0.85	61	67.2	0.91
算数	60	66.6	0.90	64	70.2	0.91	57	63.2	0.90	57	62.5	0.91
理科							53	63.3	0.84			

中学校	令和元年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比
国語	63	72.8	0.87	55	64.6	0.85	59	69	0.86	61	69.8	0.87
数学	52	59.8	0.87	48	57.2	0.84	43	51.4	0.84	41	51.0	0.80
理科							40	49.3	0.81			
英語	51	56.0	0.91							37	45.6	0.81

・平均正答率の対全国比は昨年度と比較すると、小学校算数、中学校国語はほとんど変化は見られませんでした。小学校国語は0.06ポイント上回る結果となりました。一方、中学校数学では0.04ポイント、中学校英語では前回(令和元年度)と比較すると0.10ポイント下回る結果でした。主な課題は下記の通りです。

<小学校>

国語：複数の資料(図・表も含む)を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。  
算数：底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて説明すること。

<中学校>

国語：文章を比較して読み、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えること。  
数学：複数の集団のデータ分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。  
英語：日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり、事実と自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書くこと。社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えとその理由を書くこと。

・各学校では問題解決的な学習の中で複数の資料・データ等を比較して読み取ったり、対話を通して自分の考えをまとめたり、日常生活や社会と関連付け、様々な場面で活用したりする学習を、より一層積み重ねる必要があると考えます。

<正答率40%以下の児童生徒の割合(全国を1とした場合)>

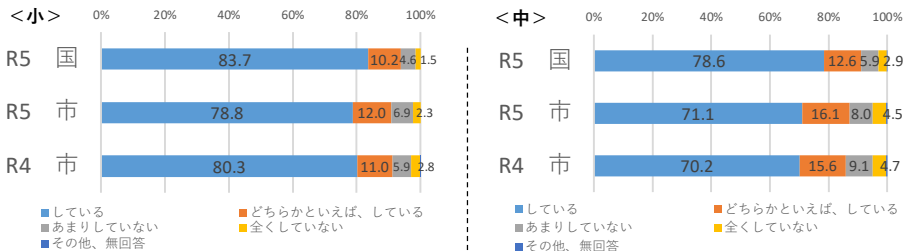


正答率40%以下の児童生徒の状況は、小学校国語・算数、中学校国語では、全国に比べて高い割合であるものの改善傾向が見られました。各校で取り組んでいる基礎的・基本的な学力の定着に向けた取組みの成果と考えられます。

学習内容の定着に向けては、小学校で放課後学習支援事業(まなびサポート)を、幼稚園・小中学校で学びの土台づくり推進事業(コグトレ)を引き続き実施するとともに、全小中学校に学習支援員を配置し、学習内容の定着に課題のある児童生徒へのきめ細かな支援を実施してまいります。

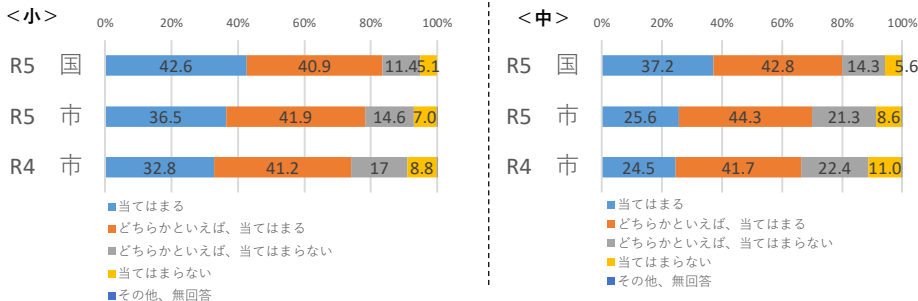
# <質問紙調査の結果概要>

## 朝食を毎日食べていますか



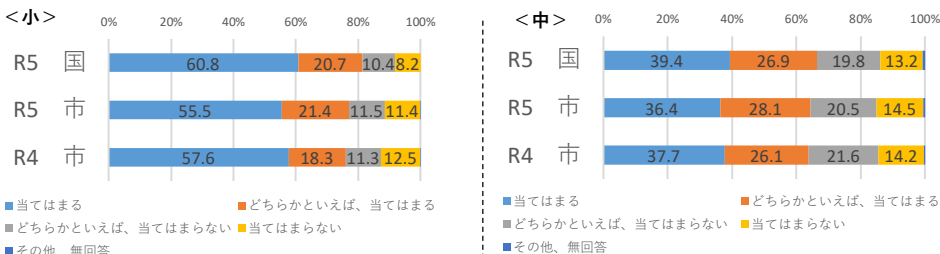
「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校は大きな変化は見られないものの、中学校では昨年度よりも改善されました。生活習慣が整うことによって、心身ともに安定した状態で学習に向かうことができます。

## 自分には、よいところがあると思いますか



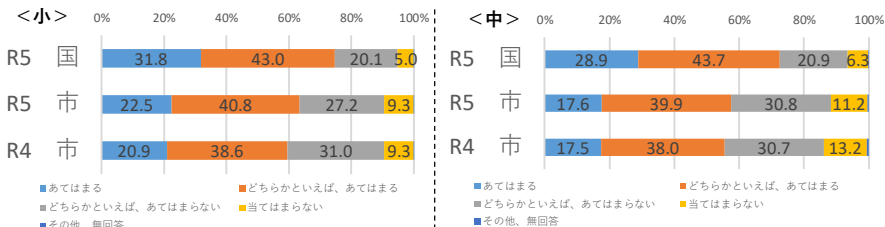
「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに上回りました。各校の成長を促す取組みの成果がでていると考えられますが、より一層取組みを進める必要があります。

## 将来の夢や目標を持っていますか



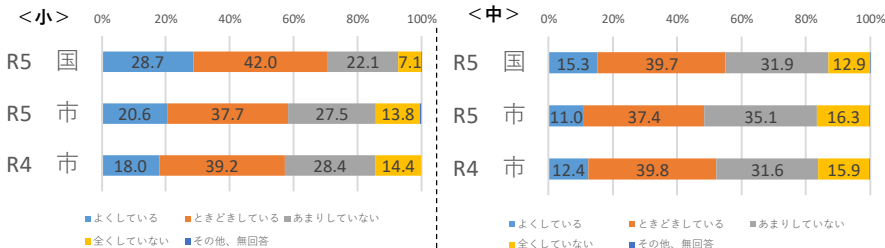
「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合は、昨年度から大きな変化はありません。子どもたちが夢や目標を持てるような取組みを、学校や家庭・地域でさらに進めていく必要があります。

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

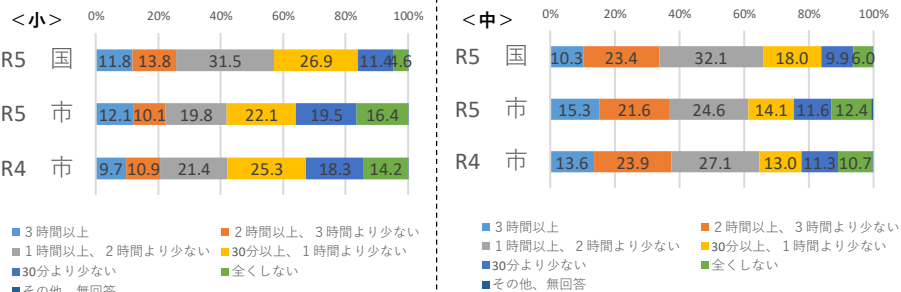


総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、昨年度を上回っているものの、全国を下回っている状況です。各教科の出題傾向を見ても、複数の資料から情報を集め整理する力や、それらをまとめ表現する力を育成することが求められていることが分かります。総合的な学習の時間だけでなく各教科でも、探究的な学びを進めていく必要があります。

## 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では昨年度から上回っているものの、中学校では下回っている状況です。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という質問では、昨年度と比較すると、3時間以上と回答した児童生徒の割合は増加している一方、「全くしない」と答えた児童生徒の割合はさらに増加しており、2極化の傾向にあります。引き続き児童生徒の学習習慣の定着に向けて、家庭と学校が協力して取り組んでいく必要があります。

＜調査の概要＞

- 1.調査実施日 令和5年4月19日（水）
- 2.調査の対象 小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第5・6学年
- 3.調査の内容 5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート  
6年生：理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
- 4.実施児童数 5年生：1,551名 6年生：1,604名 合計：3,155名

＜調査結果の概要＞

本市5年生の平均正答率の対府比は、昨年度から国語で0.02ポイント、算数、理科で0.04ポイント下回りました。いずれの教科も府の平均正答率を下回っています。

5・6年生の「わくわく問題（教科横断型問題）」も府の平均正答率を下回っており、対府比では昨年度から変化はありませんでした。

各教科等の解答状況からは、基礎的基本的な言葉等の理解や文章等の意味を正確に捉える力（言語能力）を定着させることが課題と言えます。また、複数の文章や資料から情報を読み取ったり、問いに対して判断の根拠や理由を明確にして自分の考えを表現したりする力を育成することも課題と言えます。

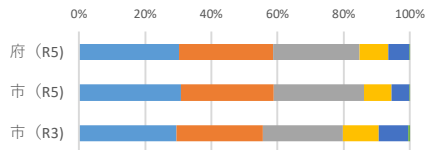
明らかになった課題の改善のために、各教科等での基礎的基本的な知識・技能の定着を図るとともに、問題解決的・探究的な学びとおとして、言語能力・情報活用能力を育成してまいります。

また、一昨年度から取り入れている、学びの土台づくり推進事業（コグトレ）や、ICT機器や学校図書館を活用した学習支援などを強化し、教育委員会・小中学校が一体となって、岸和田市の子どもの学力向上に取り組んでまいります。

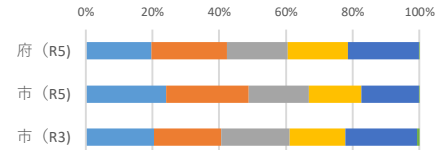
＜児童アンケート結果（抜粋）＞

- あてはまる
- ややあてはまる
- どちらともいえない
- ややあてはまらない
- あてはまらない
- その他、無回答

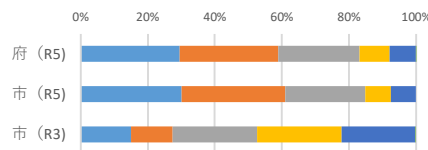
①どこに行っても、新しい物事や経験を探す



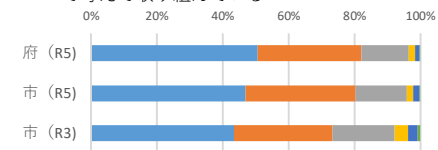
②物事に対して夢中になっても、しばらくするとすぐに飽きてしまう



③自分の気持ちを態度や表情に出す



④あなたの学級は、日直や係の仕事を自分たちで考えて取り組んでいる



アンケート結果から、岸和田市の子どもの好奇心の強さという良さがある（グラフ①）一方、目標に向かって粘り強くがんばること（グラフ②）や気持ちをコントロールする力（グラフ③）に課題があることが伺えます。令和3年度と比較すると、その傾向は顕著になっています。また、学級での係活動等（グラフ④）では、令和3年度と比較するとより主体的に取り組んでいることが分かります。

学校生活や日常生活において友だちと協働して学んでい中で、さらに好奇心を高めたり、社会性を身につけられる取組みを推進してまいります。

＜各教科平均正答率＞

	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	岸和田市	大阪府	対府比	岸和田市	大阪府	対府比	岸和田市	大阪府	対府比
国語(5年)	76.0	81.6	0.93	71.8	76.8	0.93	71.5	78.3	0.91
算数(5年)	42.0	48.5	0.87	36.4	42.0	0.87	31.1	37.5	0.83
理科(5年)	42.9	49.2	0.87	66.2	72.2	0.92	54.6	62.3	0.88
理科(6年)							67.7	73.1	0.93

◎良好なところ◎

＜国語＞

- ・対義語の理解や、指示語の内容を捉えること
- ・助詞を正しく使うこと

＜算数＞

- ・わり算を使う問題の場面を理解して立式し、商を求めること

＜理科＞

- ・観察記録から関係性を読み取り、正しく表したグラフを読みとること（5年生）
- ・月の観察に必要な内容を理解したり、観察カードから考察したりすること（6年生）
- ・雨が降り出すときの雲の様子を理解すること（6年生）

▲課題となるところ▲

＜国語＞

- ・故事成語を理解すること
- ・主語と述語の関係を捉えて正しく理解すること
- ・漢字やローマ字を正しく書くこと
- ・接続表現を用いて二文を一文に書き直すこと

＜算数＞

- ・図形を構成する要素や性質をもとに、説明すること
- ・問題文やグラフから読み取れる情報をもとに計算すること

＜理科＞

- ・乾電池を直列・並列につないだときの、豆電球の明るさの違いを理解すること
- ・実験器具の使い方や昆虫の体や植物のつくりについて理解すること
- ・光の性質を利用して、ものをより早く温める工夫を考えて書き表すこと

＜小学校5・6年【わくわく問題（教科横断型問題）】＞

わくわく問題では、すべての教科や活動などで必要な5つの力が問われました

- A: 図や表、文章などのつながりを見つけ、正しく理解する力
- B: 図や表、文章などのつながりを見つけ、筋道をたてて考える力
- C: 図や表、文章などのつながりを見つけ、新たな課題を考える力
- D: 図や表、文章などのつながりを見つけ、自分の考えをまとめ表現する力
- E: 意欲を持って、工夫して相手に伝える力

	市 正答率	府 正答率	対府比
令和5年度	65.9	71.4	0.92
令和4年度	59.3	64.5	0.92
令和3年度	52.0	60.1	0.87

◎良好なところ◎

- ・興味・関心のある事について、意欲的に工夫して相手に伝えること
- ・会話や資料と関連づけ、相手に分かりやすく伝えるための工夫を考え表現すること
- ・図や表、文章などの内容を関連づけて、正しく捉えること

▲課題となるところ▲

- ・図や表、文章などの内容を関連づけ、筋道をたてて考えること
- ・理由や根拠を明確にして伝えること
- ・複数の資料から身の回りや社会問題を読み取り、その解決のための自分の考えを具体的に書き表すこと



令和5年度大阪府小学生すくすくウォッチの問題・解答例はこちらからご覧いただけます

## 調査の概要

1. 調査の目的 児童生徒の学力の状況と課題をよりの確に把握し、それに応じた学習指導の改善や充実に役立てる。
2. 調査実施日 令和5年6月7日（水）
3. 調査の対象 市内小学校3・4年生（3年生：1,540名 4年生：1,596名 合計：3,136名）
4. 調査の内容 国語、算数

## 調査結果の概要

今年度実施の学力調査の出題形式が変更になり、各教科の観点項目が変わりましたが、全体の傾向として3、4年生ともに、全国の平均正答率を下回る結果となりました。また、昨年度実施した調査結果と同様に、国語の「書く」力、「読む」力、算数の「図形」の力は依然として課題となっています。言語能力や数量・図形感覚は、低学年のころから発達段階に応じて育てていくことが重要です。この結果を、今後の指導に生かして学習内容の習熟に努めるとともに、授業改善をさらに進めてまいります。

## 平均正答率について

【国語】	<3年生>			<4年生>			
	観点	岸和田市	対全国比	観点	岸和田市	対全国比	
話すこと・聞くこと	62.0	0.85	◎良かったところ ・漢字を正しく読んだり、正しい筆順を理解すること。  ▲課題となるところ ・漢字を正しく書くこと。 ・情報と情報の関係を理解すること。 ・指定された長さで、自分の思いや考えが明確になるように文章を書くこと。 ・内容の大体を捉えながら読むこと。	話すこと・聞くこと	75.0	0.91	◎良かったところ ・漢字を正しく読み書きすること。 ・説明文で、叙述を基に内容を捉えること。 ・文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。  ▲課題となるところ ・情報と情報の関係を理解すること。 ・指定された長さで2段落構成にし、自分の考えやその理由を明確にして書くこと。 ・自分の考えを明確にして書くこと。
書くこと	47.4	0.84		書くこと	41.6	0.80	
読むこと	57.5	0.82		読むこと	60.0	0.90	
知識・技能	68.8	0.86		知識・技能	63.8	0.89	
思考・判断・表現	54.9	0.84		思考・判断・表現	55.7	0.87	

【算数】	<3年生>			<4年生>			
	観点	岸和田市	対全国比	観点	岸和田市	対全国比	
数と計算	69.7	0.90	◎良かったところ ・データの活用（表やグラフ）は全国平均並み ・時刻と時間について、理解し、計算することができていた。  ▲課題となるところ ・図形の性質を理解し、説明すること。 ・説明にあつ立式をすることや、式に合った問題文を選ぶこと。	数と計算	64.2	0.89	◎良かったところ ・データの活用（表やグラフ）は全国平均並み ・数の仕組みを理解することはおおむねできている。  ▲課題となるところ ・計算の意味を理解し、説明すること。 ・道のりを計算し、どちらの道のりの合計が短いのかを説明すること。
図形	50.9	0.84		図形	66.9	0.89	
測定	70.5	0.93		測定	57.8	0.89	
データの活用	81.8	0.99		データの活用	84.2	0.98	
知識・技能	71.6	0.92		知識・技能	70.1	0.92	
思考・判断・表現	49.8	0.84	思考・判断・表現	44.6	0.81		

3,4年生に共通する課題は、国語では「情報と情報の関係を理解すること」や「指定された条件で自分の考えを書くこと」、算数では「説明に合わせて立式すること」、「計算の意味や図形の性質を理解して説明すること」が挙げられます。

情報と情報の関係（1,2年生では共通・相違・事柄の順序など、3,4年生では理由や事例・全体と中心など）について理解したり、それを基に読み書きすることは、これから様々な学習をしていく上で必要な力です。また、図形感覚や数量感覚等は低学年から日常生活等の事象と関連させながら身につけていく必要があります。事象を、言葉による表現とともに図・数・式・表・グラフといった数学的な表現を用いて説明する力は、日々の授業での問題解決学習とおとして、また友だちと協働することをおとして身につけていくことができます。今後さらにこれらの力を育成する取組を継続してまいります。